

2012.11.21

「今回の総選挙の目的は民主党に鉄槌を下すことだ!」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は 11 月 19 日月曜日です。先程、私は京都大学教授の藤井聡先生と共に安倍総裁の下を訪れ、経済政策の要望を伝えてきました。デフレ脱却のため、国土強靱化・震災復興を目的とした公共投資を行うべきだ、ということです。民主党、マスコミからは新手のバラまきだ、という批判が出てきています。しかし、この批判は見当はずれであり、なぜ今この経済政策が必要か、しっかりと説明する方法を安倍総裁に伝えてきました。具体的には、週刊西田の中に特別番組として入れてありますので、是非こちらも御覧になって頂ければと思います。

先日の党首討論をきっかけに、解散総選挙が決まったのですが、その際に定数は正の約束といった、いわばイタチの最後っ屁を野田総理は残して行きました。しかし、この野田総理の最後の強気の改革姿勢を評価する方々が、マスコミをはじめ多数いらっしゃるのですから、つくづく、こういった方々は一度詐欺師に騙されてもこりないのだなあと思いました。そして、今日はこの話をしたいのです。

もともと、野田総理が解散総選挙をした理由は何だったのでしょうか。自ら、私は馬鹿がつくほどの正直ものだから解散をしたのだと言っています。そうではないでしょう。まだ暑い夏の盛りの 8 月に、野田総理の近いうちに解散をす

るという言葉信じて我々は法案審議に応じたのです。本来は、あの時点で野田総理は解散をするべきだったのです。ですが、結局今に至るまでしませんでした。近いうちはそのうちだという形で逃げてきたのではないですか。ところが、末期には田中真紀子大臣といった、とんでもない方々を閣僚に任命して、その責任から逃げられなくなったのです。そこで開き直って行ったのが今回の自爆解散です。

正直に約束を守ってきたのは我々自民党であるし、谷垣総裁なのです。谷垣総裁はその誠実さゆえに、約束したはずの近いうち解散が履行されなかった為、その責任をとり、総裁選出馬を断念せざるを得なかったのです。約束に誠実だった谷垣総裁が総裁選出馬を断念して、不誠実だった野田総理がいつまでも総理の座にいるのはどういうことなのかと世論から嘘つき総理とレッテルをはられました。そのレッテルから逃れる為に解散しただけであって、はじめから騙し続けているのです。

騙し続けた野田総理がやることは、あとは解散だけであって、議員定数削減といった重要なことを彼がどうこう言う権利はありません。ましてや、TPPといった重要な外交上の約束をなぜ、アメリカに行ってできるのですか。次に総理に返り咲くなど、誰も思ってもいない人に、できもしない外交上の約束を求められても、相手側の国が困ってしまいます。いまや、アメリカ、中国、韓国のどの国も、野田総理の言葉に反応する人はいません。

反応しているのはマスコミだけなのです。野田総理の言っていることをそのまま垂れ流しているだけです。マスコミは政府の大本営発表をそのまま垂れ流すだけの体質に先祖返りしているのではないかと思います。自民党政権下においては政府の発表も報道してくれましたが、反権力的な立場から、政府の方針に批判的な目線で報道していました。ですが、今の民主党政権に対するマスコミの報道は批判精神が非常に乏しくなっている。その批判の目は、あいかわらず自民党に対して向けられているのです。

今回の安倍総裁が打ち出している経済政策、列島強靱化を目的とした10年間で200兆円の公共投資は必要なことです。ですが、マスコミの反応はせっかく構造改革をやってきたのにそれでいいのか、というようなことを言っているのです。安倍総裁は野党の党首なのです。野党の党首を批判するのもよいですが、マスコミが本気で検討するべきは野田政権の国力を損失し続けた3年間のことです。財政も、教育も、外交安全保障も、ありとあらゆる分野で国力を損失し続けたのです。それは誰がやったのかといえば、民主党政権なのです。安倍総裁はもちろん、このことを党首討論で主張しました。ところが、民主党の閣僚席からは自民党が古い遺産を残したからだ、というような野次が一斉に飛びました。私は本当に反吐が出そうになりました。3年間政権を執ってきた人間が、自分がやってきたことにまったく反省もせず、未だに自民が自民が、と言っているのを聞くにつけ、本当に救いようのない人々としか言いようがあり

ません。しかし、マスコミも同じ論法で報道しようとしているのです。

今回の総選挙は民主党の政権運営こそが争点になるはずなのです。ところが、次の政権運営を自民党に任せていいのかというように論点がすり替わっている。これでは全体が相対的な議論になり、本来の議論の本筋であるべき、3年前の民主党に政権を託そうと報道をしてきたことについての総決算が見えなくなってしまうのです。そのことが横に置かれて、次の政権運営はどうすべきなのか、といったような議論ばかりになると現実の問題は何も見えなくなってしまう。

我々自民党は60年間政権を担ってきました。もちろん問題はありません。構造改革といった誤った政策や、自分の国を自分で守るという当たり前のことが十分に行われていませんでした。これらの点については、大いに反省しなければならぬのです。ですから、安倍総裁は「戦後レジームの脱却」という事を掲げられておられます。防衛力の在り方、憲法改正といった戦後体制自体を見直さなくてはならないということです。これはまったく正しいと思います。

一方で、経済政策については小泉政権の後継ですから、誤ったところもありました。そこで、次期安倍政権においては、そのことの反省も踏まえた経済政策をしっかりと打ち出しているのです。ですから、構造改革路線とは決別しているのです。日銀と協力して需要を創出し、デフレを脱却していこう、と言っているのです。自民党はこう言ったことを発信していますが、マスコミが正し

く報道しようとしません。マスコミのいい加減さが、さらなる出鱈目な政治を呼びこんでしまうかもしれません。

今回の選挙の争点は、一にも二にも三にも、出鱈目な3年間の民主党の政権運営です。是非このことを再確認して頂きたいと思います。今日も御覧になって頂き、ありがとうございました。

本日も御覧頂きありがとうございました。